



渋谷区立鉢山中学校

令和7年度リーディングDXスクール認定校

／未来の学びモデル校

研究報告

一人ひとりの“ちがい”が活きる 新たな学び・探究の推進

2026年3月26日

研究概要



研究主題

「人」台端末とクラウド環境を学習の基盤とした
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

研究のねらい

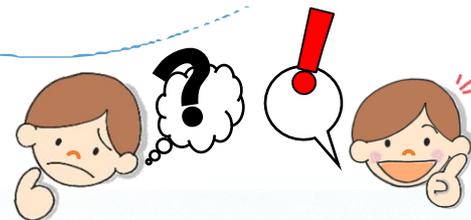
汎用的なソフトウェアとクラウド環境を徹底的に活用し、情報活用能力の育成を図りつつ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を目指す。

研究の内容

- 研修・実践を通して、次の①～③に関する実践事例を創出し、その過程や学校としての取組体制・実施方法も合わせて普及する
 - ①情報活用能力を育成する指導の充実
 - ②主体的・対話的で深い学びの実現に向けたGIGA環境の活用
 - ③自治体の実態に応じてさらに活用促進を図る具体的な取組
- 子どもが主体的・探究的に発展的内容に挑戦する教科の学びに取り組む

研究概要

研究の方法



○実践授業（公開）

※全教員が1回実施する。授業者以外は参観・協議に参加する。

（英語・数学は少人数）

※授業前：学習指導案略案作成

授業後：報告書作成（A4版1枚程度）

※初任者研修、中堅研Iの授業研究を充てる

○学習会（協議、講義）

講師：学校DX戦略アドバイザー 久保田 善彦 先生

（玉川大学教職大学院）

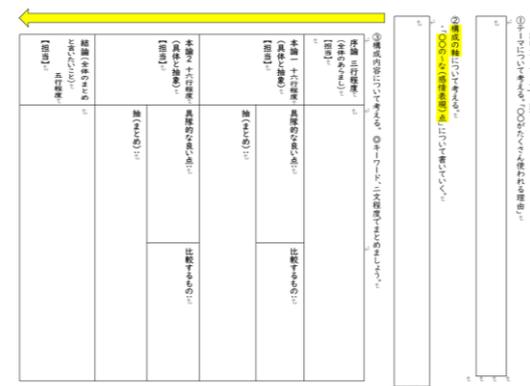
回	日付	1 A	2 A	3 A	I 組
1	6月27日（金）	国語	音楽	理科	数学
2	11月26日（水）	数学	美術	英語	体育
3	12月24日（水）	英語	社会	体育	生活単元 学習

【研究のねらい】 主体的・対話的で深い学びの実現に向けたGIGA環境の活用

情報を整理して説明しよう
—比較を用いた協働的な説明文の作成—



学習活動	目標	効果
①班で主題や全体の構成、役割分担について考える。	主題や構成について話し合い、多面的な意見を取り入れた内容にすることができる。	それぞれの価値観を生かし、多面的な視点に立った説明文を構成できる。
②本論の比較のために必要な情報をICTを活用して調べ、多面的な視点から取捨選択する。	本論の「比較」のために必要な情報を多面的な視点から取捨選択し、効果的な内容にすることができる。	多くの情報を多面的な視点から考察することで、効果的な内容を見いだすことができる。
③フォーマットを活用し、班で文章の作成を行う。	文章全体を各自で確認する中で、多面的な視点から文章の推敲をすることができる。	各担当が作成している文章をその場で確認し合い、改善し合うことができる。



取組のねらい・実施にあたり工夫した点 等

- ・協働的な作業を中心とすることで、苦手な生徒でも協力し合いながら学ぶことができた。
- ・情報の取捨選択について感想を述べる活動では、習熟に関わらず参画できていた。
- ・ICTを活用することで、学習活動を円滑に進めることができていた。

【研究のねらい】 主体的に学び、対話を通して協働する学びをつくる

仲間と学び合い、豊かな表現を創り出す合唱の学び

【授業の概要】

- ジグソー法によるグループ活動
各パートを歌詞・楽譜・記号の3つに分け、それぞれを合体させた3グループで読み解いたことをPowerPointにまとめ共有する。
- パートリーダー中心の協働学習
各グループでリーダーが進行役となり、対話的な活動を通じて、合唱の質を高める。



【生徒の変容】

- ICTを活用したグループ活動により、個々の負担が軽減され、協力しやすくなった。
- 他者との対話を通じて、音楽の理解が深まった。
- 歌詞・旋律・記号の視点から楽曲を分析し、協働的に合唱表現を工夫することで、主体的に学ぶ姿勢が育まれた。
- ICTの活用により、苦手な生徒も安心して参加できた。

取組のねらい・実施にあたり工夫した点 等

- ・分析結果を基に、全体合唱による表現活動において、表情豊かな合唱を目指した。
- ・パート練習が中心になりがちな合唱練習でジグソー法を取り入れることで、他のパートとの対話により表現の理解が深まり、合唱の質を高めることにつながった。
- ・ジグソー法では生徒一人一人が得意な分野を選択して分析を行ったので、安心して授業に参加でき、主体的に学びに向かう姿があった。

【研究のねらい】 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実

ダニエル電池の一極と+極での反応をイオンや電子のモデルで表そう



ヒントカード①

硫酸亜鉛は Zn^{2+} と SO_4^{2-} に
硫酸銅は Cu^{2+} と SO_4^{2-} に
電離するよ

STEP1 水溶液に含まれるイオンを表す

硝酸亜鉛水溶液には、

硝酸銅水溶液には、

が含まれている。

学習活動	目標	効果
①ダニエル電池の仕組みをPowerPointの教材を用いてモデルで表す。	ダニエル電池の正・負極でイオンと電子がどのように動いているか考える。	PowerPointの教材にヒントカードを付け、それぞれの習熟に合わせて学習を進めることができる。机間指導で個別に対応できる。
②グループでダニエル電池の仕組みについて教科書やインターネットの情報なども用いて思考する。	ダニエル電池の仕組みをグループで思考を深める。	すでに理解している生徒は教えることで確かな知識となる。新たな疑問などグループで解決しようとする。
③全体でダニエル電池の仕組みを確認する。	ダニエル電池の仕組みについて理解する。	これまでの思考を整理し、確かな知識を身に付けることができる。

取組のねらい・実施にあたり工夫した点 等

- ・ヒントカードを用いることで個別最適な学びが実現できた。
- ・グループ活動では、活発な意見交換や疑問に対する議論が行われていた。
- ・個別学習では取り組みにくい生徒がいたので、最初からグループ学習にした方が効果的であった。
- ・生徒がPowerPoint教材のヒントやイオンの画像を活用するなどして生徒一人一人が習熟に合わせて選択できるように教材を工夫した。

【研究のねらい】 理解度に応じて個別最適な学びを自らが考えて学習に取り組む

整数の範囲で加減乗除の計算ができるようになる

学習活動	目標	効果
①前時迄の学習内容確認テスト	表とグラフの問題を解きながら前時迄の学習内容を振り返る。	確認テストによって生徒一人一人が自ら課題を見つける。
②学習内容・方法の相談	確認テストの到達に応じ、本時に学習する内容を授業者と個別に相談し決定する	確認テストの結果をみて、授業者との相談により自ら課題を見つけ、学習内容と学びのスタイルを考えて自分で決める。
③自分に合った学習内容・教材を使った学習	相談結果を基に、生徒一人一人が決めた学習内容と教材を用いて学習を行う。	主体的に学びに向かう態度を身に付ける。



<振り返り>

○生成AIに問題を作成させ、学習を行った生徒がいた。今後は問題作成以外に効果的な生成AIの使い方を模索する必要があると感じた。
○ICTだけでなく紙媒体での学習（グラフの書き取りなど）の必要性も感じた。

どのような力を育成することを目指して取り組んだか

- ・生徒一人一人がICTを活用して最適な学びができるように、普段の授業で個別学習の時間を設定した。
- ・生成AIやインターネットサイトの問題演習シート(無料)、Qubenaなどのアプリソフトを活用し、生徒一人一人が自分の理解に応じた課題を選択・設定し、学習方法も洗濯できるよう、助言・指導を行っている。

【研究のねらい】 主体的・対話的で深い学びの実現に向けたGIGA環境の活用

平面図形 コンパス曼荼羅展覧会！

【授業の概要】

- 本授業ではコンパスの使い方を練習するために曼荼羅を作図する。作図し、色を付けた曼荼羅の写真を取り、PowerPointに貼り付け、Teamsを使って共有する。
- その後、3～4人一組のグループになり、全員分の曼荼羅を鑑賞してよい作品を3つ選び、ポイントを絞って分析をする。
- 最後に、全員が分析結果を発表・共有したのち、「よい作品を作るには」について考えをまとめる。希望する生徒は改めてコンパス曼荼羅を作図する。



【生徒の変容】

- タブレットで撮影した他の生徒が制作した曼荼羅を鑑賞し、グループ協議をとおして、自身の作品の改善点に気が付くことができた。
- 気が付いた内容を個人で振り返り、言語化することで次の作品作りをよりよくすることができた。
(生徒の改善点の視点の例)
 - ・円を増やすともっと細かい曼荼羅が作れるのでいいと思った。
 - ・配色を増やすときれいになると思った。
 - ・円の大きさを大きすぎず小さすぎず、ちょうどいい大きさにすることが大切。



どのような力を育成することを目指して取り組んだか

- ・生徒が他者の作品を見て、作図の正確さや配色の規則性を分析をすることで、自身の作図に生かせるように、「気付かせる」授業を組み立てた。
- ・本時の学習内容は、多くの生徒が最後のまとめの後の再制作に取り組むことができなかった。今後は、2時間扱いで計画をし、気づきから再度の作図に取り組むことで学びを深めさせたい。

【研究のねらい】「創作和菓子作品」と「菓銘」の鑑賞をととした主体的・対話的な深い学び

PowerPointを活用して作品を鑑賞し、作品に込めた季節感について味わう

【授業の概要】

- 制作した創作和菓子の画像をPowerPointで共有し、菓銘と結びつけてExcelファイルに菓銘を入力していく。
 - ・季節ごとにまとめられている中から菓銘を結び付ける。
 - ・グループで鑑賞を共有する。
- 自分の作品と菓銘を発表する。
 - ・自分の作品について簡単に説明を加える。



【生徒の変容】

- 始めの10分間は、各自で作品をじっくり鑑賞することにより、作者の思いや季節感の表現について深く感じ取ることができた。
- PowerPointを活用したグループ鑑賞では、季節感の感じ方、表現について様々な捉え方があることを知り、鑑賞、対話をととし、作品が表す季節感の表現を深めることができた。

取組のねらい・実施にあたり工夫した点 等

- ・1人1台端末を使うことによって、生徒一人一人が作品を自由に鑑賞でき、鑑賞を深めることができる。
- ・作品から菓銘をイメージするクイズ形式にすることにより、生徒が作品をじっくり鑑賞し、どのように季節感を表現したのかを深く味わうことができる。
- ・グループで共有することによって、季節感の表現には様々な捉え方があることを対話的に学ぶことができる。
- ・作品と菓銘を発表することによって、作者がどのように季節感を表現したかを深く味わうことができる。

【研究のねらい】 個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実

バスケットボール スキルアップを目指した練習方法を自分で探そう

【授業の概要】

○動画学習

6種類の動画から自己の課題にあったものを選んで視聴し、練習方法やコツを学ぶ。

○練習&ゲーム形式での実践

○振り返り

Canvaの付箋機能を活用した意見の交流・振り返り



【生徒の変容】

○意欲・振り返りの質の向上

「できるようになりたいこと」「試合でがんばりたいこと」が明確になり、授業への主体性の向上と、試合を振り返るポイントの整理ができた。

○活発な意見交流

話すことが苦手な生徒も、他の人の意見を見て、共感したり、自身の考えと結び付けるなど、個での学習を協働的に深めることができた。



取組のねらい・実施にあたり工夫した点 等

- ・技能差がある集団において、個の意欲や技能に応じた練習環境を整え、全員に達成感や満足感を感じさせる。
- ・意見の共有や話し合いを苦手とする生徒にとっては、Canvaを活用して互いの意見に触れることができる。
- ・タブレットを使用する時間で運動時間が減少する分、前半にリズムハンドリング～シューティングの流れを設定することで、運動量を確保すること。

【研究のねらい】 個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実をとおして、 場面に適した実践的な英語でのやり取りを深める

場面に適した英語でのやり取りを深めるためのAIアプリの活用やチャット活動の効果的な学習



【授業の概要】

- ELSAを活用して道案内やレストランでの会話の音読練習
- グループワークで、道を尋ねる人・道案内人・サーバー・客役に分かれてスキットの作成
- グループごとにスキットの発表
- フィードバックをし合う



【生徒の変容】

- 授業導入に設定したペアワーク「2 min. Chat」やELSAを用いた個人練習が、会話に対する生徒の心理的ハードルを下げる役割を果たし、ペアでの会話に対する抵抗を軽減した。
- スキットの即興作成は初めての経験であり、各グループの取組の速度や質には差が見られたものの、対話には生徒の個性が映し出されていた。
- 設定された場面に更にオリジナル要素を付け加えて物語として広げていくグループがあり、英語を“教科”としてだけでなく“表現手段”として捉え始めた変化が見て取れた。

どのような力を育成することを目指して取り組んだか

- ・本時のねらいは、「日常場面で英語を使ってやり取りする力」を、実際のコミュニケーションをとおして育成することとし、コミュニケーションに向けた準備として「2 min. Chat」やELSAを用いた。
- ・スキット作成では、即興性を求める一方で、「道案内」→「レストランでの注文」という場面設定をし、例文も提示することで負荷を下げた。更に演者の役割を設定したことで生徒が会話の方向性をイメージしやすくした。
- ・気付きを生ませるよう、生徒間でフィードバックシートを用いた。

【研究のねらい】 個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実をとおして、 各地方の特色を多面的・多角的に捉える

【主体的・対話的で深い学び】の視点

学ぶことへの興味・関心をもち、他者や先哲の考えを手掛かりに考え、自己調整を図りながら学ぶことを通して、知識を相互に関連付けながらより深く理解し社会問題解決のために行動をする。



主体的・対話的で深い学び
個別最適・協働的な学び



未来も含めたすべての人が笑顔で暮らすことのできるより良い社会の実現を目指す形成者へ



【個別最適・協働的な学び】の視点

それぞれが得意分野で他者を支え、全体で高め合おうとする風土を形成する。全体で成長していく中で、社会の形成者として自己の役割や責任感を身に付ける。



【授業の概要】

本授業では、上記の図の緑色の部分を意識した授業を構成した。単元は『地理的分野・日本の諸地域』で、単元の終末であったことから、培った知識を相互に関連付けながら、その地方でみられる特色やそれが生じる理由について、自然環境・人口・歴史など習得した知識と関連付けて捉えられるようにした。また、特色をいくつかの分野でグループ分け・難易度分けを行い、生徒が得意な分野を選択し、他者に貢献しようとする態度を養った。授業の最後には、クイズアプリを用いて知識の定着度を図った。

取組のねらい・実施にあたり工夫した点 等

- ・各地域の特色を捉えさせる際、得意分野を選択することができるよう分野別・難易度別の形式とした。
- ・学びの定着を図るためにICTツールを活用し、自分のペースで取り組むことができるようにした。

【研究のねらい】 個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実をとおして、 主体的に運動に取り組む態度を育てる

陸上競技[長距離走] 「嫌いから好きへ！走りの魅力を探究せよ！！」

『ペースと呼吸で走りやすさは変わる？』
『音楽でタイムや疲労感は変わる？』
『腕の振りや姿勢で走りやすさは変わる？』

【授業の概要】

生徒から圧倒的不人気の陸上競技[長距離走]。しかし、世間では空前のランニングブーム。この矛盾を中学生が3つの視点から検証した。グループに分かれて練習内容を考え、その結果をタブレットに記録し、主体的に活動した。



- ・Excelに毎回の練習内容や検証結果を記録。
- ・グループで振り返り。



【生徒の変容】

- 生徒は自ら練習方法を考え、友達と協力しながら学習を進めることができ、「走りたくない」というネガティブな声は聞かなくなった。
- さらに、3つの視点以外にも新たな問いが生まれ、生徒が主体的に学ぶ姿が見られた。

取組のねらい・実施にあたり工夫した点 等

- ・長距離走に対する苦手意識をなくし、楽しんで取り組めるようになれば、運動時間が増え、体力向上につながる考えた。1年次にはさまざまなトレーニング方法を学び、それらを生かして、2・3年次には自ら練習計画を立てて取り組めるようにした。

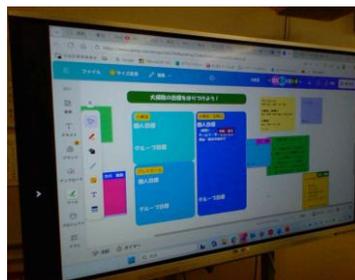
⇒3回の検証授業後、全体で結果を共有し、その後の個別練習に生かした。

【研究のねらい】 個別最適な学びと協働的な学びの一体テク充実をとおして、 清掃活動の目標を設定する

清掃活動～大掃除をがんばろう！～

【授業の概要】

- 3時間設定の学習活動として、より深く清掃について知るために、清掃方法についての**情報共有**
- 掃除分担個所に分かれて、①**個人**の目標、②**グループ**目標の設定と共有
- 大掃除当日は、グループに分かれて**主体的・対話的**な大掃除の実践



【生徒の変容】

- 普段の清掃活動では、漫然と掃除をしているが、**Canva**を活用して目標を設定し、互いに共有することで、より深く活動に対して考えることができ、「自分事」として捉えさせることができた。
- 家庭生活でも大掃除をする時期に取り組んだことで、学級で学習したことを家庭での大掃除に生かす生徒の姿あった。



どのような力を育成することを目指して取り組んだか

- ・「生活単元学習」では、生活に即した課題に取り組んでいる。今回は、授業内で取り組む清掃活動における自分の清掃分担での目標を立てることをとおして、学校と家庭での掃除へのより良い取り組み方について考え、協力することができるようになる力を育成することを目指して取り組んだ。

【研究のねらい】 多様な学び方から個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図る

武道[柔道] 自己に適した学習方法で投げ技を習得しよう！

【授業の概要】

投げ技の習得に向けて、ペアで技の向上を図る授業を行った。習得の観点や技のポイントについて事前に伝え、生徒がICTを活用して多様な練習方法から自己に適したものを選択して学べるようにした。さらに、ペアでの学習またはペア同士（4人組）の学習を通して、協働的に学び合うことができるように場の設定をした。



【生徒の変容】

今までは、ひたすらに技の練習を繰り返し、課題点については先生に質問する生徒が多かった。今回の授業をとおして、生徒が主体的により良い練習方法を模索し、課題点についても映像や仲間同士の観察から互いに考え、学び合う姿が多く見られるようになった。他の单元でも声の掛け合いやICTの効果的な活用が見られるようになった。

取組のねらい・実施にあたり工夫した点 等

- ・柔道の投げ技を習得するために、「学習カードでのポイントの確認」、「連続写真の活用」、「動画を撮影しての詳細な振り返り」、「時差カメラを用いての即座の振り返り」など、様々な学び方を設定し、生徒が自分に合った学び方を主体的に選択できるようにした。
- ・学ぶ過程で仲間と協力しながら振り返りをしたり、教え合ったりすることで協働的な学びにつながる工夫をした。

研究のまとめ



成果

- 全教員が自身の教科について、研究の目的である「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業研究に取り組むことで、学校全体で授業改善への意識や態度が高まっている。
- 全ての授業研究をとおして、講師の先生に継続した指導・助言を受けることで、「主体的・対話的で深い学び」の理解を深め、その後の授業で実践していくことができている。

課題

- 生徒に学びの深まりがある学習活動の設定
- 「振り返り」の目的や場面、方法、手段の設定
- 学びの深まりのための一体化の設定及びICTの活用

今後の取組

- 次期学習指導要領の「深い学びの実装」に向けた、学びをデザインする高度専門職としての教師を目指し、授業研究に取り組む。